

令和5年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和6年1月15日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
主体的・対話的で深い学びにより、確かな学力と健やかな体を育成する	学ぶ意欲の向上	子どもの「できる・わかる」を引き出すとともに、問題解決的な学習を実践する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な出来事から湧き出た疑問をもとに授業展開を考えるように努めた。 ・意味調べやねらいをもった正確な音読、「意味が分かって読めること」を大切に授業への転換が図られた。 ・問題解決的な学習の授業研究のために植田スタンダードを意識して授業案作りを行った。 ・放課や家庭でも運動に取り組むことができるよう各種運動カードを作り取り組んだ。 ・体育の授業だけでなく教師がともに運動場へ出て外遊びを励行し、多様な動きを経験させた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が問題解決学習を行うことができるよう植田スタンダードを作ったのがよい。学習発表会は、問題解決学習となる良い教材となっていた。 ・基礎体力向上のためにスポーツレーナーの指導時間が1学期に1回はあってありがたい ・タブレットで学習方法や内容に深まりを感じた。地道な学習方法も大切にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決的な学習の授業改善に向けて、国語と算数の教科を中心にタブレット端末活用を位置付けよう一段深い学びを目指す「植田スタンダードII」を考案する。 ・文意をとらえる読む力を育てるため、漢字学習と語彙の拡充を結び付ける。 ★子どもたちの学力が向上するような授業づくりをめざす。
	子どもの体力の充実	体育の授業や体育的行事を重視し、体育的な環境を整え、すすんで運動に親しむ子を育成する。	A					
互いの立場を理解し、温かい気持ちで関わり合える集団づくり	孤立する児童のいない温かな学級、集団づくり	子ども同士が、お互いのよさを認め合う活動やグループ活動など、人間関係づくりを目的とした実践に計画的に取り組む。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「いなほトーク」をはじめ全教科で相手の顔を見て話す、聞くことを徹底指導している。お互いの相違を認め合い尊重する大切さに気付かせることで、温かい人間関係づくりに努めている。 ・子どもたちが自主的な挨拶運動として校内で挨拶をする場面が多くみられるようになった。地域でのあいさつには、個人差があり今後の課題である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観等で子どもたちが和やかな人間関係を育んでいるのを感じた。 ・子どもたちが安心して発言しているのは、日常の人間関係が温かく築かれているのと思う。 ・元気よくあいさつをしてくれる子とあいさつがない子がいる。顔見知りでない場合は、あいさつが難しいと思う。きっかけがあれば挨拶できるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教育活動を通じて、共感的理解のもと、より関わり合いを深める方法を学ぶ。 ・「自尊感情」や「自己肯定感」を育むための授業づくりや行事を計画する。 ・教師と児童の人間関係の構築を重視し、今後も一人一人の児童を大切にしていきたい。 ★挨拶ができるよう習慣化させるとともに、挨拶のよさを実感させたい。
	自らあいさつができる子の育成	児童が自分をとりまくさまざまな人々に、自分からあいさつができるようにする。	B					
開かれた学校運営を推進する	地域ぐるみの教育システムの構築	地域教育ボランティアや保護者、地域住民、地元企業等を活用した授業や体験活動を実践する。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地教ボ「植田いなほ会」登録者100名超。 ・クラブ講師や生活科・総合的な学習などで地域教育ボランティアと関わる授業を展開し、環境教育やキャリア教育他に生かした。 ・地震、火災、津波の避難訓練実施。校区防災訓練への参加励行。 ・専門家や講師に招き、食アレ対応や心肺蘇生法についての現研実施。 ・付添下校。朝の立番実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した授業は子どもたちが地域に愛着を持つよい取り組みになっている。 ・図書館ボランティアやクラブ活動講師などが長く継続しており、地域の教育力が生かされていることが素晴らしいと思う。 ・校区にため池や梅田川がある地域なので、防災とともに水難事故への教育もしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎ地域教育ボランティアの協力を得て児童の学びの幅を広げる。新たな人材を発掘していく。また、地域のかたにも学校の様子を知っていただくよい機会とする。 ・避難訓練の前後だけでなく、折に触れて防災意識を高める。 ★着衣泳を続け、水の事故を起こさない指導をする。
	非常災害時や学校生活における判断力・行動力の育成	「安全教育の手引き」を活用し、緊急時の対応や生活安全についての理解を深め、自らのいのちを守ったり、けがを防止したりするための適切な判断力・行動力を養う。	B					
教育公務員としての意識を高め、組織人として学校を支える教師集団を目ざす	教員の授業力向上	「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、全教員が研究授業を行う。視点を明確にした研究協議会を積み重ねる。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童に内発的動機づけを抱かせる学習問題について、教員同士が意見を交わし考えあうことができた。 ・行事や教材研究について、ミドルリーダーが若手の相談にのる雰囲気ができつつある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・超多忙の中、研修や協議会を行うのはとても大変だと思う。 ・教員も子どもも保護者なので多忙が解消されるとよい。 ・教員の負担が減ることで教育の質が下がらないことを望む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用し、児童相互が関わり合うより深い学びを目ざす授業を研究する。 ★情報機器を活用した授業モデル案を検討する。新しい授業スタイルを追求するとともに従来の授業スタイルのよいところを若手に伝えていく。
	教員の多忙化解消	仕事量の多い校務分掌をチーム化し、一部の教員に過重な負担がかかることがないように、適切な措置を実施する。	B					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】